
数理News 2004-1

東京大学大学院数理科学研究科

7月1日発行

編集: 広報委員会

数理ニュースへの投稿先: surinews@kyokan.ms.u-tokyo.ac.jp

数理ニュースホームページ: <http://kyokan.ms.u-tokyo.ac.jp/~surinews>

目次

- [教育研究と効率化](#)
 - [人事ニュース](#)
 - [新任紹介](#)
 - [研究ニュース](#)
 - [Computer & Network : 最近の話題から](#)
 - [数理トピックス](#)
 - [編集後記](#)
-

教育研究と効率化

研究科長 薩摩 順吉

4月1日から東京大学は国立大学法人となりました。新制大学発足が1949年のことですから、55年ぶりの大変革というわけです。そうした時期の研究科長職というのはなかなか大変なものがありました。自分自身が何かを作るというわけではないのですが、次から次へと提出される本部立案のさまざまな規則を理解し、部局の構成員に周知するという仕事が数多くありました。今年に入ってから3月末まで、それこそ洪水のような分量でした。立案された執行部、事務局、総長補佐の方々のご尽力には頭の下がる思いです。規則の中には、学長を中心とした役員会に権限が集中するきらいのある法人法のもとで、これまでの大学自治を保持していく姿勢がうかがえる大学の基本組織規則や総長選考内規などがあります。例えば基本組織規則の原則の項で「東京大学が、東京大学憲章に則り、国民から付託された大学

の自治に基づいて、総長の総括と責任の下に、国民の付託に伴う責務を自立的に果たして自らの使命と課題を達成することができるように、構成され、運用されなければならない」というくだりがあります。多少抽象的ですが、その精神は大学で教育研究に励んできた私にとって納得できるものです。

ところで、年度末に近くなって聞き慣れない規則が山のように出てきました。それは就業規則と各種労使協定です。民間で働いておられる方々はよくご存じのものかもしれませんが、大学ではあまり意識したことのないものでした。今となつては当たり前のことですが、公務員でなくなると、労働基準法をはじめとする労働法が適用され、使用者（大学法人の場合は役員）と従業員との間で労働契約を結ぶ必要があります。駒場地区事業所に属する数理学研究科の場合、従業員の中から選出された過半数代表団と使用者の間で労使協定が結ばれたのは、皆様ご存じのように3月31日のことでした。過半数代表団のご努力により、育児・介護の除外規定については締結せず、また残業に関するいわゆる36協定は修正されたうえで4協定案の調印が行われました。なお、就業規則等については従業員は意見を述べるができるだけで、使用者側がアクションを起こさない限り変更ができません。

就業規則等は26種類の規則・規定からなる膨大なものです。過半数代表団に使用者側から提示されたのが3月24日でした。事前に案は示されていましたが、詳細に内容を検討する時間はありませんでした。4月以降、法人化の嵐は過ぎましたが、就業規則に従ってさまざまな変化が見られています。例えば教員に関することでは、大学院手当の支給基準が簡素化され、これまであった調整数3がなくなりました。また職員に関することでは、昼休みが45分になりました。これまでの職員の標準的就業形態は午前8時30分始業、午後5時終業、昼休みは1時間でしたが、勤務時間、休暇等規則案によって拘束時間が15分延長され、逆に昼休みが15分短縮されたわけです。さらに教職員に関することでは、旅費規程が変わりました。区分は役員と教職員の2つだけで、日当・宿泊料とも古手の教授は減額となります。また、外国からのビジターに支給する滞在費は約20%の減となりました。

こうした変化は微々たるものであるかもしれませんが、効率化が第一義的な理由であるのでしょう。しかし、もともと教育研究というものはきわめて効率の悪いものです。効率よく良い教育、優れた研究ができるとは思いません。今後国から交付される運営費は裁量的なものとなり、毎年効率化係数をかけて減額されることが予想されています。また、財政改革の観点から、経費削減に聖域なしということで2%のマイナスシーリングがかけられる可能性もあるといわれています。いつ役に立つかわからないけれども、人間と社会そしてその背後にある自然の将来のためになる基礎科学を推進し、教育を通して後世に伝えていくことができるもっとも大切な場所が大学であり、今後もそうした役割が果たせる環境の続くことを願うばかりです。

[目次へ](#)

(※平成16年1月20日以降の異動一覧です。)

教員

☆転入			
異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
16.4.1	斎藤 秀司	大学院数理科学研究科 教授	名古屋大学大学院多元数理科学研究科
16.4.1	足助 太郎	大学院数理科学研究科 助教授	京都大学大学院理学研究科 助教授
16.4.1	高木 寛通	大学院数理科学研究科 助教授	京都大学数理解析研究所 助手
16.4.1	高山 茂晴	大学院数理科学研究科 助教授	九州大学大学院数理学研究院 助教授
16.4.1	Allesio, Corti	客員教授(H16.4.1~H16.9.30)	ケンブリッジ大学 教授
16.4.1	Do, Duc Thai	特任教授 (H16.4.1~H16.9.30)	ハノイ教育大学 教授
16.6.1	Brown, Nathaniel	大学院数理科学研究科 助教授 (H16.6.1~H17.5.31)	ペンシルバニア州立大学 助教授
☆転出			
異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
16.3.31	落合 卓四郎	定年退職	大学院数理科学研究科 教授
☆昇任			
異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
16.4.1	小沢 登高	大学院数理科学研究科 助教授	大学院数理科学研究科 助手

職員

☆転入			
異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
16.4.1	山口 雅美	教養学部等総務課数理科学総務係	

16.4.1	小永井 悌子	教養学部等教務課大学院第二 係	
--------	-----------	--------------------	--

☆転出			
異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
16.3.31	本田 ゆ う子	退 職	教養学部等教務課大学院第二係
16.5.31	佐藤 真 理子	退 職	教養学部等総務係

[目次へ](#)

新任紹介（教員）

齋藤 秀司 教授

今年の春から東大数理に赴任することになりました。東大には、1982年に東京大学理学部修士課程を修了して同年に理学部の助手に赴任してから15年間お世話になっておりました。

1997年に東工大理学部数学教室に移り、さらに2000年に名古屋大学大学院多元数理研究科に移りました。7年ぶりにまた東大に戻らせていただき感慨を感じております。

私の研究分野は主に3つの部門からなります。

最初は高次元類体論です。ここでは高木-Artinにより確立された古典的類体論の高次元化とその応用を目指しています。具体的には数論的多様体のアーベル被覆を代数的 K 理論を用いて統制することで、幾何学的類体論とも言えます。最近では p 進Hodge理論を用いて局所体上の多様体の高次元類体論を研究しています。

次は複素多様体上の代数的サイクルの Hodge理論を用いた研究です。19世紀の関数論の金字塔ともいえるAbelの定理を高次元化することを目指しています。これまでBloch-Beilinsonによる混合モチーフの哲学的指導原理に従って、GriffithsのAbel-Jacobi写像を一般化する高次Abel-Jacobi写像の理論を構成し、GriffithsのAbel-Jacobi写像では捉えきれないような代数的サイクルを捉えることをしてきました。

最後は数論的代数多様体上の代数的サイクルの p 進 Hodge理論を用いた研究です。代数体上の代数多様体のChow群の有限生成性予想がこの部門における基本的な問題です。これを p 進Hodge理論などの数論幾何の様々な手法を用いて研究するのが目標です。

東大数理の教員や学生の方々と数学を勉強をしていけることを心から嬉しく思っています。

足助 太郎 助教授

2004年4月1日に京都大学大学院理学研究科から転入いたしました。思ったより引越しが大変でなかなか落ち着かないのですが、最近どうにか研究などが出来るようになってきました。

東大に限らず、どうも大学には珍しい苗字の方が多いように思います。私もその例に漏れず、一般にはほとんど見かけない苗字なのですが、「あすけ」と読みます。愛知県にある同名の地名に由来するようです。

専門は位相幾何学（トポロジー）で、葉層構造と呼ばれるもののうち、横断的に複素解析的なものを中心に研究しています。このような葉層構造は複素多様体上の力学系や、複素微分方程式と関連が深いのですが、分からないことが多く、というよりも分からないことだらけで、例えば特性類の観点からも多くの重要な問題が手付かずで残っています。多少なりとも何らかの貢献が出来ればと思っています。

東大に移ってきていろいろ目新しいことが多いのですが、実は今回通勤定期を初めて使うことになりました。学生時代に通学定期は使っていましたが、今までは電車があまり走っていない所に勤めていたこともあって就職してからは無縁でした。なんだか社会人1年生になったような気分ですが、これを機に初心に帰って教育・研究に励みたいと思います。至らぬ点も多いかと存じますが、よろしく願いいたします。

高木 寛通 助教授

この度、4年半の京都での修行を経てこちらに戻って参りました。懐かしさでいっぱいです。研究室からの眺めがとてもよく、春には桜、晴れたときには富士山が見えるというぜいたくな環境でうれしく思っています。

京都では数理研におりまして、授業も演習も担当することなく過ごしておりましたので、こちらに来て初回の授業で、生徒が150人以上いるのを目の当たりにしたときは、そのまま教室を間違えたふりをして京都に帰ってしまおうかと思いました。今となつては、もう150人いようが300人いようが大丈夫です。要するに生徒の方を向かなければいいんですから。ただ、やっぱり至らないところばかりで、ただひたすらに反省の日々を送っています。

研究の方は、ここにいた頃からずっと、3次元 Q-Fano 多様体という射影多様体の分類を考えています。Q-のない三次元 Fano 多様体の分類理論というのは、すでに完成していると言ってよく、その美しさに惹かれてQ-のある方を考えています。まだまだ、やるべきことはたくさんありますが、楽しんでやっっていこうと思います。数理の皆様にはこれからご厄介になりますが、どうぞよろしく願い致します。

高山 茂晴 助教授

4月1日付けで九州大学を退職し、同日付けでこちらに採用になりました。いろいろと移動していますが東大は初めてです。どうぞよろしく申し上げます。

3月末には九大総長宛てに「退職願」なるものを書かされました。

4月からの各大学の独立行政法人化に伴っての手続きではあったのですが、そのつい10日前には「そのような手続きはなく、今までの転勤と同じです。」と言っていたのに。

自分はもちろん、多くの人が殆んど理解していないのは承知しているけれど、「その後、民法上そうしないと退職金等が引き継がれないことが分かりまして・・・。」などという状況で「退職願」を本当に提出してしまっただろうか？

などと考えたが、考えたところで答えが見つかる訳でもなく、学部事務で少しごねた後に手渡ししてしまった。ごねまくった人もいたらしい。

そのことはすぐに気にも留めなくなっただけけれども、4月の中頃に九大から例の青色の給与明細の袋が送られてきた。まさか「退職金を振込みました。」ではなかろうかと思い、恐る恐るミシン目を切り開いてみれば、7万弱の年度末の超過勤務手当であった。な～んだ。

Allesio Corti 客員教授

I am a pure mathematician from the University of Cambridge and my field of work is called "higher dimensional algebraic geometry". This is my fourth visit to Japan: I will never forget my first trip here, back in 1992, when I visited Nagoya for three months just as I was finishing my doctorate. I have been fortunate to keep close relationships with several Japanese colleagues working in my field, and it is a great honor to have been invited to spend six months here. I will use this time to work with my Japanese friends on mathematical problems, and to share with my family my enduring passion for Japanese things and people.

Do Duc Thai 特任教授

I am Do Duc Thai, Professor of Department of Mathematics of Hanoi University of Education. It is honour to me that I have a chance of visiting The University of Tokyo by COE program. On myself, I have two children. My field of interest in mathematics is Complex Geometry consisting of complex analysis in several complex variables and Kobayashi hyperbolic complex spaces and value distribution theory. The days at The University of Tokyo give me a nice opportunity to discuss with such mathematicians as Professor Hirotaka Fujimoto, Professor Junjiro Noguchi..., who have done a lot in these fields.

This will help me to get new successes in mathematics. I really saw "sakura hana" at the Ueno park in the beginning of April. This gave me very deep impressions. I am happy that I have a nice opportunity to understand more Japan and the Japanese culture. I am the first member of Department of Mathematics, Hanoi University of Education, who works here. I hope there will be a cooperation between two Departments in the next time. Thank Graduate School of Mathematical Sciences of University of Tokyo for hospitality and warm atmosphere.

林 高樹 特任助教授

1月から8月までの予定でCOE特任助教授として勤務させて頂いております林です。今回の着任にあたり楠岡先生には多大なるご尽力を賜りました。

紙面をお借りしてまずは御礼申し上げます。

私の興味の対象は、ファイナンスと統計学、特にその接点の部分です。分野の性質上、楠岡先生や吉田先生にお相手をして頂いております。私は東大工学部・大学院を修了後に大手銀行に勤務、そこでずっと金融新商品の開発に従事しておりました。

例えば、株式相場が上昇しても下落しても（安定的に）収益の上がる株式ポートフォリオの研究開発もしました。職務はいわば確率論・統計学の応用分野そのもので、オン・ザ・ジョブでこれらを勉強しているうちに、理論を基礎から理解したくなり、シカゴ大学（統計学部）に留学しました。最初の留学時点では勤務先銀行からの2年間という期限つきの行費派遣留学であったため、中途での休学・帰国をいたしました。その後、紆余曲折がありましたが、円満退職後に復学し、2000年春に学位を取得しました。そして2000年秋よりコロンビア大の統計学部に勤務しております。

金融・証券・保険分野ではこれからも数学の力を必要とするであろうし、一方、数学の側にとっても、これらの応用分野は数学に新しい問題を提供しその発展にも寄与していくことと思います。本来、実務研究者の視点・興味の対象と学者のそれとは一致しないものですが、こういった分野では、“複眼”を持つ事が強みであると信じております。

任期満了まで残り半分となりましたがどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新任紹介（職員）

山口 雅美 事務補佐員

3月1日付で数理科学研究科総務係に採用されました山口雅美と申します。学校関係の事務は初めてということもあり緊張の毎日です。

一日も早く仕事に慣れ、皆様のお役に立てるよう努力したいと思っております。ご指導のほど宜しくお願い致します。

小永井 梯子 事務補佐員

4月1日付けで、数理科学研究科大学院係に採用されました小永井梯子と申します。1階の大学院係で主に教室使用などの仕事を担当しています。

一日も早く、皆様のお役に立つことができるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

[目次へ](#)

Computer & Network : 最近の話題から

数理ビデオアーカイブスプロジェクトの紹介

<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/video/index.html>

これまで数理科学研究科で行われてきた講演や講義は、セミナーノートなど文字として記録・保存されていましたが、それらの貴重な映像をより有効に活用するために撮影・蓄積・発信を目的としたビデオアーカイブスプロジェクトを2000年度より実験的に開始しました。開始当初は、数学科の学生ボランティアが中心のため数理談話会やビデオゲストブックの収録など小規模なものでしたが、2003年度より21世紀COEプログラム「科学技術への数学新展開拠点」の一環として専属のスタッフが加わり、当研究科で開催される研究集会やセミナーなどより多くの映像の収録・蓄積・配信出来るようになりました。

今回は、ビデオアーカイブスプロジェクトの主な活動を紹介します。

1. ビデオゲストブック収録



数理科学研究科に来訪された先生方に数学を志したきっかけ、学生のころの思い出などをこれから数学を志す学生に向けてざっくばらんに対談形式で話していただいたものを収録しホームページで公開しています。

写真1 ビデオブック収録の様子(会議室)

2. 研究集会、談話会の収録



数理科学研究科や他大学で開催された研究集会や談話会を収録し主催者と講演者にビデオテープやDVDでお渡ししています。撮影では、数学の講演の特徴である黒板の文字が良く見えるようにハイビジョンカメラの利用や複数台のカメラを切り替えるなどの工夫をした撮影をしています。また、講演者の許可をいただいた講演については、ホームページで公開しています。

3. 公開講座のライブ配信と収録



数理科学研究科で毎年開催される公開講座やオープンキャンパスの講演をリアルタイムでインターネット配信しています。収録した映像は、ホームページでも公開しています。

写真3 公開講座 収録の様子 (大講義室)

4. 他大学とのライブ中継

H.323 ビデオ会議システムを利用して他大学での講演をライブ中継しています。講演の映像は、数理館内 CATV 9ch で放映しているのものでテレビのあるコモンルーム等で視聴できます。これまでに、京都大学、北海道大学、大阪大学、慶応大学との間でライブ中継を行っています。



写真4 ライブ中継受信の様子 (ビデオ機器室)



写真5 放映中のコモンルームの様子

ビデオアーカイブスの興味のある方や、研究集会や講演会の収録を希望される方は、お気軽に video@ms.u-tokyo.ac.jp あてにご連絡ください。

(文責 麻生和彦)

[目次へ](#)

数理トピックス

●平成 16年3月24日 (水) 談話会にて平成16年3月31日に退官された落合卓四郎教授の最後の講義が行われました。

同日 駒場のイタリアンレストラン「**Dove ce la fonte** (ドーヴ エチェラフォンテ)」にて送別会が行なわれました。(詳細は人事ニュースの頁をご覧ください)

●平成 16年3月25日（木）

修士課程・博士課程学位記伝達式が数理科学研究科大講義室で行なわれました。



●平成 16年4月5日（月）

修士課程・博士課程入学式・進学式が大講義室で行われ、薩摩研究科長、大島専攻長、名誉教授の藤田宏先生より**祝辞**を賜りました。



●平成 16年4月23日（金）コモンルームにて春の懇親会が行われました。

当日は新入生を含む学生・教員・職員が集まり、美味しい料理、ビールと笑い声が一杯のコモンルームでした。



●平成16年6月3日（木）教職員・学生が参加して環境整備が行われました。



[目次へ](#)

編集後記

今年度も引き続き広報委員長を務めることになりました。本号から新たに「研究ニュース」の項を設け、同時にホームページにも掲載しています。数理において行われている多くの重要な研究活動について、情報発信していきたいと考えています。（舟木）

今回より「数理ニュース」の編集に携わることになりました。皆様からのご意見、ご感想を頂いて良い紙面づくりに励みたいと思います。よろしく願いいたします。（平山）

広報委員会
委員 舟木 直久
数理ニュース編集局 平山 千陽

[目次へ](#)
